

深谷 英貴 議員

コロナ禍での大規模災害発生時における医療救護体制の確立を!!  
—感染症を想定した対応について関係者と協議等していく—

問 大規模災害発生時の医療救護は、市民の命を守る最重要ミッションと考える。「刈谷市に住んでいるから安心だ、だから刈谷市に住み続けたい」と思われるようなまちづくりを進めなければならない。コロナ禍による医療救護所の変更点は、何か。

答 非接触型体温計、医療用ガウン、マスク、アルコール消毒液等の物品配備を増やすなど、従来以上の対策を講じている。また検証も必要と考えている。



大規模災害時の医療救護所にコロナ対策を追加し命を守る

稲垣 雅弘 議員

教員の負担軽減を考え、先取りした形で教科担任制の実施を!!  
—専科教員を増員できれば、より充実した教科担任制を行いたい—

問 教育長の教育行政にかけたい。また、教科担任制についての現状と今後の目標は。

答 教職員が一人一人の子供に寄り添い、教育活動を充実させることが大切であると考える。この姿勢はコロナ禍でも変わらない教育の不易の部分であり、最も重要なことだと考えている。こうした思いの下で学校、地域、家庭と連携して、未来の担い手である子供たちが社会で元気に羽ばたけるように教育行政に取り組んでいく。また、教科担任制については、令和2年度に小学校で音楽、英語、国語の書写等で教科担任制を実施



教科担任制を拡大し、子供たちに効果的な教育を(令和元年12月撮影)

新海 真規 議員

带状疱疹は大きな苦痛を伴う。多くの情報発信を!!  
—带状疱疹ワクチンについて市民だよりなどで周知していく—

問 带状疱疹の正確な発症率は不明だが、刈谷市では年間

660人程度が発症する可能性がある。带状疱疹の後遺症は、

答 带状疱疹が治った後も、強い痛みが数年続き、日常生活に支障が出るほど重篤な場合もある。発症者の10〜15%程度に後遺症が生じるとも言われる。

問 带状疱疹ワクチンは接種対象者が50歳以上であり、約8千円のもの約4万円のものがある。市の助成額は。

答 1人当たり上限3千円を補助し、市民税非課税世帯などには上限8千円を補助する。

上田 昌哉 議員

公平性の観点から刈谷ハイウェイオアシスの使用料の引上げを!!  
—引上げは考えていないが社会情勢等の変化を注視していく—

問 市内の地価が上がっていることや、消費税増税などにより他の使用料は引上げが行われていることを考慮すると、公平性を追求するために刈谷ハイウェイオアシスの使用料の引上げを行うべきと考えるが、市は引上げを考えていないのか。

答 岩ヶ池公園の公園使用料は、公園内にある商業施設に当たることから、そのほかの公園の使用料との差別化を図るために、平成25年12月の条例改正に伴い、使用料の引上げを実施している。



岩ヶ池公園内での使用料は、商業施設として既に引上げを実施

牛田 清博 議員

市民の声を真剣に聴き、お城ありきでなく魅力ある亀城公園に!!  
—事業の見直しは考えていないが広く意見を頂き取りまとめたい—

問 感染者を増やさないため、新型コロナウイルスの定期的なPCR検査等をワクチン接種と並行して行う体制をつくるべきでは。

答 「かりまる」の利便性向上のための見直しは、利用者が選択できる交通手段を組み合わせた交通体系を考えている。

問 平成7年に福祉バスの早期実現を市議会で決議している。安易な有料化は市民の分断を生む。無料バスも含めた総合的な

問 市民は多様な人が憩える魅力ある公園を望んでいる。お城ありきではない公園の整備構想を作成すべきではないか。

答 亀城公園は歴史公園化を目標にしており、石垣や隅櫓等の復元をする事業が中核である。

3月定例会における新型コロナウイルス感染症への主な対策として、12月定例会での対策に加え、議場等の各席に間仕切りを設置しました。

議会トピックス

議員研修で議会ICT化を学ぶ(2月8日)

議会事務局実務研究会の北村純一氏による「ICTと議員活動」についての講演では、ICT化のメリットだけではなく、セキュリティリスクやルール化に課題があることを改めて認識しました。研修後には実際にタブレットを使用して操作確認をしました。ICTを正しく活用し今後の議会活動に生かしてまいります。

刈谷市議会会議規則の改正

女性をはじめ多様な人材が市議会へ参画できるよう、産前産後に欠席できる期間を明記するなどの改正を行いました。また、皆様が提出される請願は、署名の場合、押印が不要となりました。

編集後記

かけはし

◆令和2年度は、新型コロナウイルスによる学校休校に始まり、イベントの自粛などで日常生活が大きく変化しました。市議会としても皆様の声を基にコロナ対策の提言を市政に届け、施策の実現につなげてきました。

◆3月定例会では、新型コロナウイルス感染症対策事業、ワクチンの円滑な接種を前提に、令和3年度予算「日本一 安心安全なまち刈谷」の実現に向けた審議を縦横に行いました。

◆表紙の写真は、小中学校で1人に1台貸与されているタブレットです。一見すると普通のパソコンのようですが、取り外しが可能で、十分パソコンの機能もあります。小学校から中学校卒業まで同じタブレットを使いますので、取扱いに不安がないように工夫がなされています。

◆刈谷市議会では、今後も皆様の声をしっかりと受け止め、信頼される議会を目指し全力で取り組んでまいりますので、引き続きの御支援、御協力をよろしくお願いたします。

(議会広報委員会)